

# 自社の強みを活かす独自サービスを開発 商標取得によるブランド確立と認知度拡大

### 事業内容

スポーツ関連の企画コンサルティング事業  
記録配信サービス「スポロク」の開発・運用  
「防災スポーツ」の開発・運用  
企業、自治体、スポーツ団体、学校へのスポーツコンサルティング  
イベントプロデュース

スポロク

<https://sporoku.jp/>



防災スポーツ

<https://bouspo.jp/>



### 知的財産権の取得状況

商標権6件 (2023年10月現在)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



代表取締役 篠田 大輔 さん

### 東京五輪の開催決定が起業の契機に ～株式会社シンの立ち上げ～

東京都千代田区に位置する当社は、2014年創業のスポーツコンサルティング会社である。代表の篠田社長は、学生時代のインターン経験を経てスポーツ選手のマネジメントやコンサルティングを行う会社に就職。ラグビーを中心としたスポーツマネジメントを主に行っていたという経歴を持つ。2013年の東京オリンピック・パラリンピックの開催決定を契機に、当社を設立した。当初は、スポーツコンサルティングやマラソン大会の企画や運営を実施していたが、現在は創業当時の事業に加えて防災とスポーツを掛け合わせた自社サービス「防災スポーツ」やマラソン大会を中心とした記録配信サービス「スポロク」も展開しており、中でも「防災スポーツ」は2020年に第8回スポーツ振興賞スポーツ庁長官賞を受賞。防災、スポーツの分野で注目を集めている企業である。

### 自社サービスの立ち上げと商標取得

創業時、スポーツイベントの企画・運営、コンサルティングのみを行っていた当社。「イベントプロデュースやコンサルティングは依頼者となる団体が居ないと成り立たず、自社の強みを打ち出しにくい」と感じていた篠田社長は、自社の強みを活かした独自サービスの開発に着手。最初はマラソン大会を中心に

手掛け、マラソン大会の企画・運営を通して発見した「記録を活かしきれていない」という課題の解決に向けて、ラップタイムや通過順位、選手の位置情報など、レースの状況や結果をリアルタイムに見える化するサービスを開発。加えて、自社サービスのさらなる強化に向けて立ち上げたのが、自身の阪神淡路大震災の被災経験と、これまで携わってきたスポーツ業界の経験やスポーツのチカラを活かした「防災スポーツ」である。同サービスは、名前のとおり「防災」と「スポーツ」を組み合わせたもので、災害時に必要な防災の知恵や技を体で学ぶことを主としている。内容は、負傷者搬送や物資搬送リレーなど、災害時を想定したプログラムの提供であり、篠田社長はスポーツを通して「災害に対するネガティブなイメージを軽減すること（心理面）」と「体を動かし覚えることで災害時の行動に移しやすくすること（身体面）」の2つの軸をもとに考案したという。

### 商標登録と事業拡大

篠田社長はサービスの開発後、それらの価値をどのように成長させていくかを考えていたという。その手段の1つとして考えたのが商標権の取得であった。こうして商標出願を決意し、顧問弁護士から紹介を受けた弁理士にアイデアを相談しながら商標を出願。審査はスムーズに進み、商標登録に至った。商標登録に伴い、

広く自社サービスをPRすることができ、その名が知れ渡るようになったという。また、テレビをはじめとする多くのメディアにも取り上げてもらったことなどにより、さらにサービスの認知度が拡大。現在、「スポロク」は2024年パリ五輪選考レース「マラソングランドチャンピオンシップ (MGC)」や「金沢マラソン」など大規模市民マラソンにも導入されているほか、「防災スポーツ」の「防リーグ」はイベント開催を地道に行ってきたことで自治体や学校、スポーツチームなど様々な場所で広がりを見せている。篠田社長は「商標を取得したことでブランドを確立できた。ブランド化できたことで世間一般に広まり、さらなる認知拡大につながった。今後も商標をもとにサービスを成長させていきたい」と意気込んだ。

**知財取得を目指す経営者へのメッセージ** **注目!**

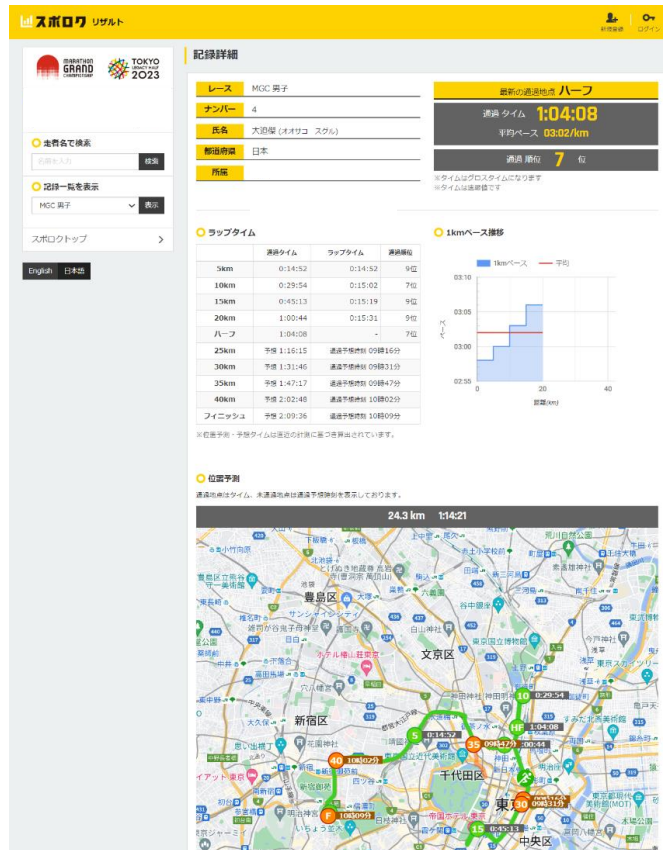
篠田社長は「知財取得は攻めと守りだ」と語る。「攻



▲ 防災スポーツの様子

▶ スポロクの画面

め」は「ブランドを作り、成長させること」。「防災スポーツ」や「スポロク」といった自社ブランドを確立できたのも商標登録を行ったことで、信頼感を得られ、自治体や学校などとの関係を構築することができ、安定的にサービスを展開できるようになった。一方で「守り」は「自社で作ったものが使えなくなるリスクを無くし、模倣されないようにすること」。特に、商標の場合は他者から真似されやすい分、対策が必須である。篠田社長は「知財経営は『攻めと守り』の両面を考慮することが不可欠だ」と強く訴えた。



**知的財産活用のポイント**

**自社ブランドの確立に商標を活用!**

当社は「スポロク」や「防災スポーツ」といった自社が生み出したサービスで商標を取得し、それをもとに自治体などでの防災訓練や学校での防災教育、マラソン大会など、様々なサービスを展開している。篠田社長はサービスの立ち上げ当初から、

事業拡大局面のことも想定し、商標の申請区分について弁理士と相談を重ねていたという。これにより「防災スポーツ」は、防災やスポーツの分野のみならず、「教育」や「不動産」など様々な業界に進出を果たしている。当社は取得した権利を活かしながらさらなる事業拡大を目指している。

**COMPANY DATA**

取材：2023年11月

企業名：株式会社シンク 所在地：東京都千代田区神田小川町1-10-2 ATELIER YOURS小川町6階  
 電話番号：03-6823-4948 URL：<https://sinc-inc.co.jp/> 創業：2014年4月 資本金：1000万円 従業員：3名

